

小学校からの学びをつなぐ中学1年生への指導について

日頃から、英語の学力保障や学力補充のために、様々な工夫をしていただき、ありがとうございます。本号では、小学校の外国語活動の学びを中学校の英語の授業につなぐポイントについて紹介します。

◆小学校からの学びをつなぐ大切なポイント◆

POINT1 小学校でどのような内容をどのように学習したか、

学習内容の確認と生徒の学習状況の把握をする。

POINT2 学習内容と生徒の学習状況を踏まえ、**計画や指導に生かす**。



POINT1

■学習内容の確認と生徒の学習状況の把握をする。

小学校外国語教材「We Can!」の学習内容を確認する。

例) ○表現や単語などの学習内容や指導方法

※小学校では、外国語活動教材「Let's Try!」(3、4年生)と外国語教材「We Can!」(5、6年生)が使用されています。一昨年度、県下の中学校にも送付されていますので、ご確認ください。

小学校との連携を通して、生徒の学習内容や学習状況を確認する。

例) ○アルファベットの学習状況について

(どのようなアルファベットの学習活動を行っていたか など)

○取り組んだ言語活動について

(どのような自己表現活動やSmall Talkを行っていたか など)

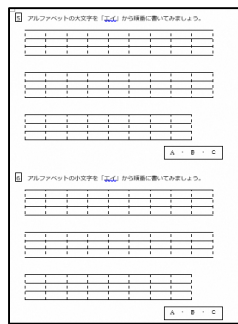


岡山県マスコット
「うらっち」



岡山県マスコット
「ももっち」

生徒の学習状況を把握するため、県教委作成の「英語チェック」もあります。ぜひ、ご活用ください。



※県教委作成「英語チェック」より

POINT2

■小学校で学んだ学習内容と生徒の学習状況を踏まえ、計画や指導に生かす。

単元や授業の時間配分を見直す。

例) ○小学校6年生のときにアルファベットの発音練習と書く練習を十分にしている場合

→アルファベットの発音練習と書く練習などの時間配分を見直し、補完的かつ発展的な活動に取り組む。

発展的な活動につなげる。

例) ○生徒が自己紹介の表現活動を十分にしている場合 (I am ~. / I like ~. / I can ~. など)

→教師がモデルを示し、新しい表現や単語を伝え、つながりのある2~3文を発表させる。
(“I am a rugby fan. I love rugby. How about you?” など)

定着には反復練習は大切ですが、同じ活動の繰り返しばかりでは、生徒はマンネリ化してしまいます。学習意欲向上には、小学校で学んだことを基に、発展的な活動にチャレンジさせることが大切です。そうすることで、生徒の知的好奇心を刺激し、学習に取り組もうとする意欲につながっていきます。

現状では、ペアやグループでの対話による言語活動は難しいかもしれませんが、生徒が自分の考えを表現し、友達と共有できる手立てを考える必要があります。次号は、対話による言語活動に代わる活動例を紹介します。